

第6分科会 「健やかな体」 運営概要

【研究課題】 健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方

【リーダーシップの視点】

- 1 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する教育活動の推進
- 2 生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動の推進

I 分科会研究協議の運営計画

社会環境・生活環境の変化は、人々の生活様式に大きな影響をもたらしたばかりでなく、子どもたちの心身への影響も大きく、体力・運動能力の低下をはじめ、ストレスや肥満傾向の増加、生活習慣病への危険性の高まりなど、様々な健康問題を引き起こしている。また、運動への関心や運動する意欲の低下、さらに、運動する子どもとそうでない子どもとの二極化が進んでおり、子どもの体力の低下傾向や生活習慣病等が問題となっている。

こうした状況の中で、子ども一人一人に運動や健康・安全の大切さについての意識を高め、自らの健康を適切に管理し改善する能力を培うことは重要な課題である。

また、子どもが学んだことを、実社会・実生活に生かすことができるように家庭・地域との連携を強化し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育み、運動のできる環境も含め、健康で安全な生活を送ることができるような教育課程の編成・実施等が求められる。

これらのことを踏まえると、学校での教育活動とともに、家庭や地域の役割を明確にし、学校・家庭・地域の密接な連携・協働が必要と考える。

本分科会では、これからの時代を生きる子どもたちが、心身ともに健やかな成長を目指す健康教育を推進するためのカリキュラム・マネジメントについての具体的方策と成果を明らかにする。

視点1 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する教育活動の推進

- ・教育活動全体の計画における体育的な活動の位置付け
- ・全教職員の共通理解のもと学校教育全体の計画における体力向上の取組の在り方
- ・家庭や地域との連携の在り方

視点2 生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動の推進

- ・自らの基本的な生活習慣を見直し、様々な欲求やストレスに対し適切に対処できる力を育む教育活動
- ・生活習慣病や基本的な感染症における予防手段を自ら講じる力を育む教育活動
- ・自分の体への関心を高め、生涯を通じて健康を維持できる力を育む教育活動

II 昨年までの成果・課題

【成果】

- ・校長の指導性においては、明確なビジョンの下、学校全体で組織立って体力向上に向けた取組を行うことが、カリキュラム・マネジメント、児童の運動に係る意識の高揚につながる事が分かった。
- ・校長が若手教員に、健康づくりに係る教育活動の企画・運営を任せ、人材育成に努めていくことは大切なことである。この取組は、教職員の意識改革や専門性、授業の質の高まり、児童の運動に関わる意識の高揚につながる事が分かった。

【課題】

- ・児童が運動に親しみ健康づくりに取り組むための地域や行政との連携の在り方については、校長の指導性を基盤として、今後も探究していく必要がある。
- ・基本的な生活習慣の定着については、保護者の意識改革という大きな課題がある。主体的に健康づくりに取り組む児童の育成のために、PTAとの連携をはじめ具体的な方策について検討する必要がある。
- ・校長がいかに外部組織とつながり、意図的にその専門性を導入していくかは、今後の課題である。

Ⅲ 研究発表の概要

【視点1】 生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する教育活動の推進

◇研究発表者 青森 階上町立小舟渡小学校長 大手 宏 秀

○発表題 地域の特性を生かした健やかな体を育む教育活動の推進と校長の果たす役割

○発表の趣旨と概要

青森県の東南に位置する三戸郡は、八戸市を囲むように6町村からなる地域である。どの小学校も、児童がスポーツに親しむためには厳しい環境に置かれている。しかし、条件がよくない環境の中でも、各校では、さまざまな工夫改善に努めながら、児童の願いを少しでもかなえ、健やかな体を育むための教育活動が進められている

本研究では、運動習慣に対する三戸郡内の実態を把握し、その傾向と課題をとらえるとともに、カリキュラム・マネジメントに基づく特徴的な教育活動を分析することを通して、地域の特性を生かした健やかな体を育む教育活動を推進するために校長の果たす役割を明らかにする。

【視点2】 生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動の推進

◇研究発表者 檜山 厚沢部町立鶉小学校長 本谷 弘之

○発表題 生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動の推進と校長の指導性

○発表の趣旨と概要

檜山管内の教育の状況としては、学力的にも体力的にも全道や全国と比較して上位にある。各町及び各校での取組が組織的に行われていると言える。しかし、学校の実態の中では、家庭との連携や関わりを大切にしながらも、家庭への啓発を根気強く行わなければならない現実もある。

檜山校長会小学校部会では、平成29年度から平成31年度まで「健やかな体」に関する実践研究を進めるに当たり、学校での教育活動とともに、家庭や地域の役割を明確にし、連携して取り組むことが大切と考えた。健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方について、具体的な方策と成果を明らかにし、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

Ⅳ 協議の流れ

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 開会・日程確認 (10分) | 7 グループ協議 視点1・2 (60分) |
| 2 趣旨説明 (10分) | 8 全体協議 (40分) |
| 3 研究発表 視点1・2 (40分) | 9 まとめと今後の課題 (10分) |
| 4 グループ討議 (15分) | 10 全体交流 (10分) |
| 5 全体協議 (15分) | 11 連絡・閉会 (3分) |
| 6 休憩 (10分) | |

Ⅴ 討議の柱

【視点1】 子どもが自ら望ましい運動習慣を身に付けるための校長の果たす役割と指導性

【視点2】 子どもが健康で望ましい生活習慣を身に付けるための校長の果たす役割と指導性

キーワード：授業改善，連携，環境づくり

Ⅵ お願い

◇グループ内で名刺交換を行いますので6枚程度お持ちください。

◇グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿（座席表）を掲載しますのでご確認ください。司会・記録を担当していただく方につきましては、当日のグループ討議の進行をよろしくお願いいたします。

◇各地区・各校の現状や取組についてグループで交流します。用意できる方は、地区・各校の取組や課題を端的にまとめた資料（A4版1枚程度）を6部お持ちいただきたい。